

栄養科学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、食品に含有される栄養成分・非栄養成分が生体に与える影響を理解し、食品の調理、加工、食事の提供などに応用されるまでの理論と技術の習得や、人間を対象に、健康の保持・増進と生活習慣病の予防・改善の要となる栄養学を追究し、実践的な理論を科学し、技術を習得することを目的とする。これらの知識や技術にプラスして「高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持・増進のための栄養指導者」としての管理栄養士養成を行う。

2. 教育目標

栄養科学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 農学と医学の領域を融合させた高度な専門的知識および技術を有し、社会に貢献できる者
- (2) 管理栄養士の資格を活かし、現代社会のニーズを捉え、人々の健康の保持・増進、疾病の予防・改善、生活の質の向上に貢献できる者

3. ディプロマ・ポリシー

栄養科学科は、農学と医学を基盤とする栄養学の知識や技術を修得し、栄養の指導者としての問題解決力や発信力を身につけ、以下の要件を満たし、かつ、所定の単位を修得した学生に対し、学位を授与します。

- (1) 食品に含まれる成分が生体に与える影響、食品が利用されるまでの理論と技術、ならびに健康の保持・増進と生活習慣病の予防・改善の要となる栄養学を追究する実践的な理論と技術を身につけている。
- (2) 食・栄養・健康に関する専門家としての知識や技術を有し、科学的根拠に基づいてこれらを応用し、食を通じて人々の疾病の予防・改善、健康の維持増進、生活の質の向上に貢献する能力を身につけている。
- (3) 卒業論文の作成を通して問題解決力、論理的考察力、コミュニケーション力、研究成果を適切に伝えることができる能力を身につけている。
- (4) 研究室内外における諸活動などを通して、自らの意思を適切に表現できる力を有し、他者へ発信し、幅広い地域で活動できる能力を身につけている。
- (5) 「生命」、「食料」、「健康」などに関わる専門性を活かし、学修の成果を社会に還元しうる能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

栄養科学科のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の専門科目を配当し、これに従い教育を行います。

- (1) 基礎的・基盤的知識の修得と農学にかかわる実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当する。
- (2) 「総合教育科目」には、「導入科目」、「スポーツ関係科目」、「就職準備科目」などの大学での学修方法等を取得する科目や、専門教育の動機づけとなる授業科目を配当する。
- (3) 「外国語科目」には、幅広い地域で活動できるよう、実践的な語学科目を配当する。
- (4) 「専門基礎科目」には、栄養学の基礎となる化学・生物学を基盤とした、「生化学」、「有機化学」、「微生物学」などのほか、管理栄養士養成の基礎的教育となる「公衆衛生学」、「健康管理概論」、「運動生理学」などを配当する。さらに農学と医学の連携の礎を築くため「農学概論」と「医学概論」を配当する。
- (5) 「専門応用科目」には、食品の特性、調理、加工、食事設計など、食品を利用するための理論と技術を取得する「食品学」、「食品機能学」、「調理学」、「調理科学実験」、「食品加工学」、「食品加工学実習」などのほか、管理栄養士の専門性を修得するため、人間を対象に健康保持・増進と生活習慣病の予防・改善の要となる栄養学を追究し、実践的な理論ならびに技術を取得する「臨床栄養学」、「栄養教育論」、「公衆栄養学」、「応用栄養学」などの講義と実習を配当する。さらに社会の現状とニーズを知り今後の学びにつなげるために、「臨地実習（一）（二）」を配当する。
- (6) 「総合化科目」には、集大成として管理栄養士としての知識を総合的に学ぶために「総合演習（一）（二）」を配当する。さらに研究することを通じて課題解決力を身につけるために「卒業論文演習（一）（二）」、「卒業論文」を配当する。
- (7) 高度化・複雑化する現代社会に対応した人材の養成に応えるため、3年次後学期以降に選択科目として、「薬理学」、「医療フードコーディネーター演習」、「栄養疫学」、「食品開発論」、「スポーツ栄養学」、「アクティブラーニングによる医栄養学（一）（二）」を配当する。

5. アドミッション・ポリシー

栄養科学科では、細胞や動物を対象とする食品栄養学分野とヒトを対象とする人間栄養学分野で、人々の健康に好ましい機能を与える食品や、その成分と生体が有する様々な機能との相互作用について追及しています。従って、食・栄養・健康に興味を持ち、管理栄養士の資格を活かして科学的根拠に基づいた食・栄養・健康の情報を活用し、様々なライフステージの人々に対し、健康の保持・増進、疾患の予防・改善、生活の質の向上に積極的に貢献し、また貢献する意欲を持ち、さらに、人間栄養学の知識を活かし、食品を消費の面から捉える能力を備え、将来、病院や介護施設の保険医療スタッフ・行政官・食品関連企業で指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- (1) 農学と医学を基盤とした食品学、栄養学に興味を持ち、学習意欲が旺盛で、管理栄養士として社会に貢献したいという意欲がある。

- (2) 高等学校において、食品学、栄養学を学ぶ上で基礎となる化学および生物学の授業を履修し、内容について理解・修得している。さらに国語や英語は、文章の読解力、論理的な記述力を身につけている。コミュニケーションを図るための基礎となる高等学校卒業時に求められている数学や現代社会・日本史などの社会科の能力を有している。
- (3) 社会が抱える健康上の課題とニーズを適切に捉え、科学的根拠の探索、情報の活用・発信のための研究に真摯に取り組むことができる。
- (4) 人々の健康に強い関心を持ち、豊かな人間力、コミュニケーション力を持っている。